岩川隆

# 孤島の土となるとも

## BC級戦犯裁判

講談社

【著者紹介】

岩川　隆（いわかわ・たかし）

一九三三年、山口県徳山市に生まれる。広島大学文学部独文科卒業。主な著書『神を信ぜず――BC級戦犯の墓碑銘』（立風書房、中公文庫）、『多くを語らず』（中央公論社）、『海峡』（文藝春秋）、『キミは長島を見たか』（集英社文庫）、『巨魁＝岸信介研究』（徳間文庫）、『決定的瞬間』（中公文庫）、『日本の地下人脈』（光文社文庫）、『天涯茫々』（潮出版社）、『競馬人間学』（立風書房、文春文庫）、『馬券人間学』（立風書房、中公文庫）、『競馬ひとり旅』（立風書房）、『殺人全書』（光文社文庫）、『上着をぬいだ天皇』（角川文庫）、『ぼくの元気村探検』（講談社）、『どうしやうもない私――わが山頭火伝』（講談社文庫）、『広く天下の優駿を求む』（プレジデント社）など、小説・ノンフィクションが多い。

N. D. C. 916　832p　20cm

孤島の土となるとも――BC級戦犯裁判

一九九五年六月二十五日　第一刷発行

著　者　岩川　隆
発行者　野間佐和子
発行所　株式会社　講談社
〒一一二―〇一　東京都文京区音羽二―一二―二一
電　話　編集部　東京〇三―五三九五―三五二二
販売部　東京〇三―五三九五―三六二二
製作部　東京〇三―五三九五―三六一五
印刷所　株式会社精興社
製本所　黒柳製本株式会社

定価はカバーに表示してあります。
©岩川　隆　1995, Printed in Japan
落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。
なお、この本についてのお問い合わせは、学芸図書第二出版部あてにお願いいたします。本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

# 目次

# 第一章 米国裁判


逮捕 16

巣鴨プリズン・ナンバー・ワン 16／密告と魔女狩り 19／トージョーを逮捕せよ 21／天皇うなずかず 23／日本人による戦犯追及 27／俘虜収容所の八月十五日 31／曖昧な口供書をもとに起訴 34／俘虜は無為徒食を許さず 39／A級戦犯とBC級戦犯 41

横浜裁判 46

英文の起訴状 46／開廷の混乱 50／公判三日前に起訴状を下付 54／横浜裁判第一回法廷 57／日本的な〝嘆願書〟 61／お国のために尽くした末に 64／敵機搭乗員処刑事件 68／復員者による外地報告 72

マニラ裁判 74

国立戦争犯罪局の設置 74／各国の初期の対応 77／マッカーサーの〝誇り〟 80／〝俘虜の辱めを受くるなかれ〟 84／ATISとJAGDの報告 88／住民の告発と首実検 92／一人として法律家なし 95／日本兵が検察側証人に 99／現地の人たちに対する犯罪 103

上海裁判 107

漢口事件 107／「ノビている」状態の中で「処分」 110／〝ドゥリッ


此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

トル空襲〃軍律会議事件　113
グアム・クェゼリン裁判――118
〃虐待〃の毎日　118／南洋諸島　123／米海軍初の裁判　125／命令者の自殺　129／ヤルート島　133／島民銃殺　136／指揮官自決す　141／阿鼻叫喚の収容所　143／海軍生体解剖事件　147／狂気――四つの頭を煮る　151／陸軍がやるなら……　154／天国と地獄　158／人肉嗜食事件　162／感情と法とは別　166／米海軍の執念　170／監督懈怠の責任　174

## 第二章　英国裁判

シンガポール裁判――180
チャンギーの地獄　180／弁護の申請　183／メジャーとマイナー　186／新聞は〃怨念晴らしの舞台〃　191／英軍の怒り　195／「華僑粛清事件」　199／泰緬鉄道　206
ビルマ裁判――210
ラングーン裁判　210／日本軍将校の〃密告〃　214／弁護に立った外国人　217／カラゴン事件　220
ボルネオ・香港裁判――225
「私は無実だ」　225／被告番号　228／アピ事件　232／サンダカン事

件 235／「松葉杖も許されず」十三階段に 236

## 第三章 豪州裁判

ラバウル裁判 242／効果的な裁判のスタート 245／〝身内のアジア人〟の反逆 249／「従来の親交を謝する」 253
マヌス・ダーウィン裁判 257
民間人の裁判長 257／ビスケット二枚の朝食 260／「すべて私の命令……」 263／裁く側の共通の論理 268

## 第四章 オランダ裁判

バタビア・メダン裁判 274
インドネシアの独立 274／〝反日陰謀作戦〟 277／求刑すなわち判決 280／抑留者が裁判官 284／離島禁止令 288／スマトラ治安工作 293／スマトラ戦犯第一号 295
ボルネオ・セレベス裁判 303
植民地戦争の継続 303／〝憎まれ役〟の運命 307／ハガ事件 314／通訳受難 317／ロアクール事件 320／マカッサル裁判 325／同胞の弁護に尽くす 327

メナド・アンボン裁判――332
「私の裁判の不正な事」338／アンボンの監視343／メナドの悲劇332／親オランダの風土335
クーパン裁判――347
ティモール島347／「恨む事は何事も御座ゐません」351／〝はい左様なら〟354
モロタイ・ホーランディア裁判――362
即日結審362／自決か虐待死か365／テルナーテの戦い369／現地採用兵補の復讐373／兵補処刑377／菩薩行の弁護380／「日本の再建を信じる」384／国際法規に無知387

## 第五章　フランス裁判

サイゴン裁判――394
降伏式と独立394／フランス軍への反感397／フランスに裁判権？401／〝ガルトン大尉の裁判〟405／拷問と法と408／終戦後のフランス人殺害413／明号作戦416／FFI課報団419／ランソン事件422／〝命令〟と〝責任〟425／個人にも責任あり429／〝恥じるところなし〟433

# 第六章　中国裁判


北京裁判――438
東洋的寛容精神　438／「敵人罪行調査辦法」　441／真珠湾以前か以後か　445／十ヵ所の法廷　449／市内引き回し　453／〝虫けら以下〟　456／〝身代金次第〟　459／戦犯第一号は炭鉱管理人　463

広東裁判――467
「裁判は只名ばかりにして」　467／つねに死刑をもってのぞむ　470／〝厳重処分〟の命令　474／海南島の集団殺人　477／孤独な戦い　481／果敢な裁判闘争　485／検察官の沈黙　488

徐州・漢口裁判――492
「無茶苦茶に御座候」　492／「孫子の末まで言い遺し……」　496／復員船から戦犯監獄へ　501／「嬉々として天命に従はん」　504

済南・太原裁判――508
「至誠以外に生きる途なし」　508／不幸中の幸い　511／〝残留〟の勧誘　515／「中国をうらむな」　518

満州裁判――521
中ソ、国府軍の進出　521／二重の裁判　526／〝五万円あれば釈放〟　531

／戦犯捜索へ協力　533／国共のはざま　537
中共裁判――541
最後の戦犯　541／民衆裁判　544／〝思想改造〟　547／毛沢東への請願　552／皇帝溥儀の証言　555／〝懺悔〟と〝感謝〟と〝誓い〟　558／再び瀋陽裁判へ　563
上海裁判――571
〝人相が悪いから……〟　571／人違い裁判　576／〝思ふまじ思ふまじ〟　578／憲兵は戦争の〝尻ぬぐい〟　582
台北裁判――586
台湾人も戦犯　586／金によって〝和解〟　589／「両腕はベッドに縛りつけられ……」　593
南京裁判――596
〝南京虐殺事件〟　596／侵略の罪　601／蔣介石との仲　605／運命を左右した風聞　608／いのち取りになった「百人斬り」記事　612

## 第七章　ソ連裁判

ハバロフスク裁判――618
独自の〝秘密裁判〟　618／膨大な戦犯被疑者　622／スメルシ機関　624

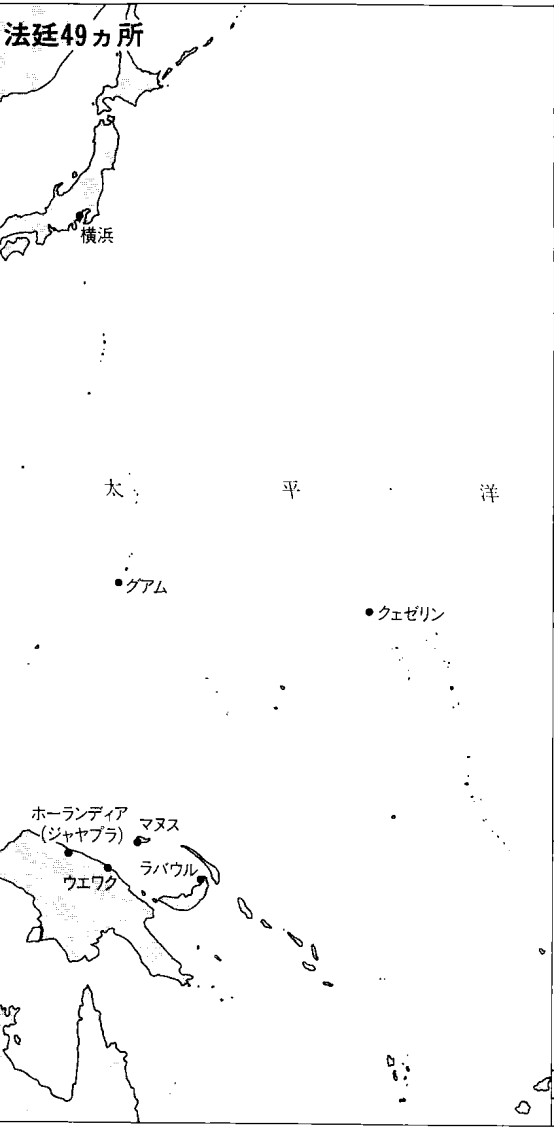
／〝オソ〟で判決を決定 629／スパイ即死刑 632／国際法と無縁なソ連裁判 634／細菌戦関係事件 639／生体実験 643

## 終章 戦争犯罪

俘虜 648
〝罪状〟は殺害から住居侵入まで 648／大量の俘虜者 652／日本の〝習慣〟が裁かれる 655／ジュネーブ俘虜条約 659
憲兵 663
〝受難の兵種〟 663／赤裸々な人間の悲惨な姿 667／憲兵の自己批判 671／〝厳重処分〟という悪弊 673
命令 678
「命令」は「絶対」か 678／命令は絶対ならず 682／情状は酌量するが、責任は追及 685／無差別爆撃は戦争犯罪 688／大空襲の悲惨 692／米大統領激怒す 696／〝空襲軍律〟 700／「戦争の継続だ」 703
事後法 707
勝者も犯す〝戦争犯罪〟 707／「五万人を射殺しなければ」 711／法学者の〝侵略〟論争 714／〝正義〟と〝公正〟 718
弁護人 722

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

現地採用 722／文化と文化の戦い 726／「語学に堪能であれば」730／英国人の人道を尊ぶ心 733／アメリカ裁判とオランダ裁判の相違 736／〝緩衝帯〟の役 739／スマトラの特殊事情 743／政治的な思惑 747／被告人と同じ待遇 750／緊急処断令 753／死命を制した翻訳 759
世紀の遺書――――――――764
事実とセンセーショナリズム 764／躾と文化 768／ベトナムの惨事 772
朝鮮人・台湾人――――――――777
陸軍軍属の監視員 777／「皇国臣民の誓い」781／アジアに対する責任 786
BC級裁判を〝概観〟して――――789
あとがき 792
年表 794
事項索引 819
人名索引 830




米国裁判……マニラ
……横浜
……上海
……クェゼリン
……グアム

英国裁判……シンガポール
……クアラルンプール
……タイピン
……ラブアン
……ランゲーン
……アロ・ールスター
……香港
……ジョホールバル
……ペナン
……ジェッセルトン
……メイミョウ

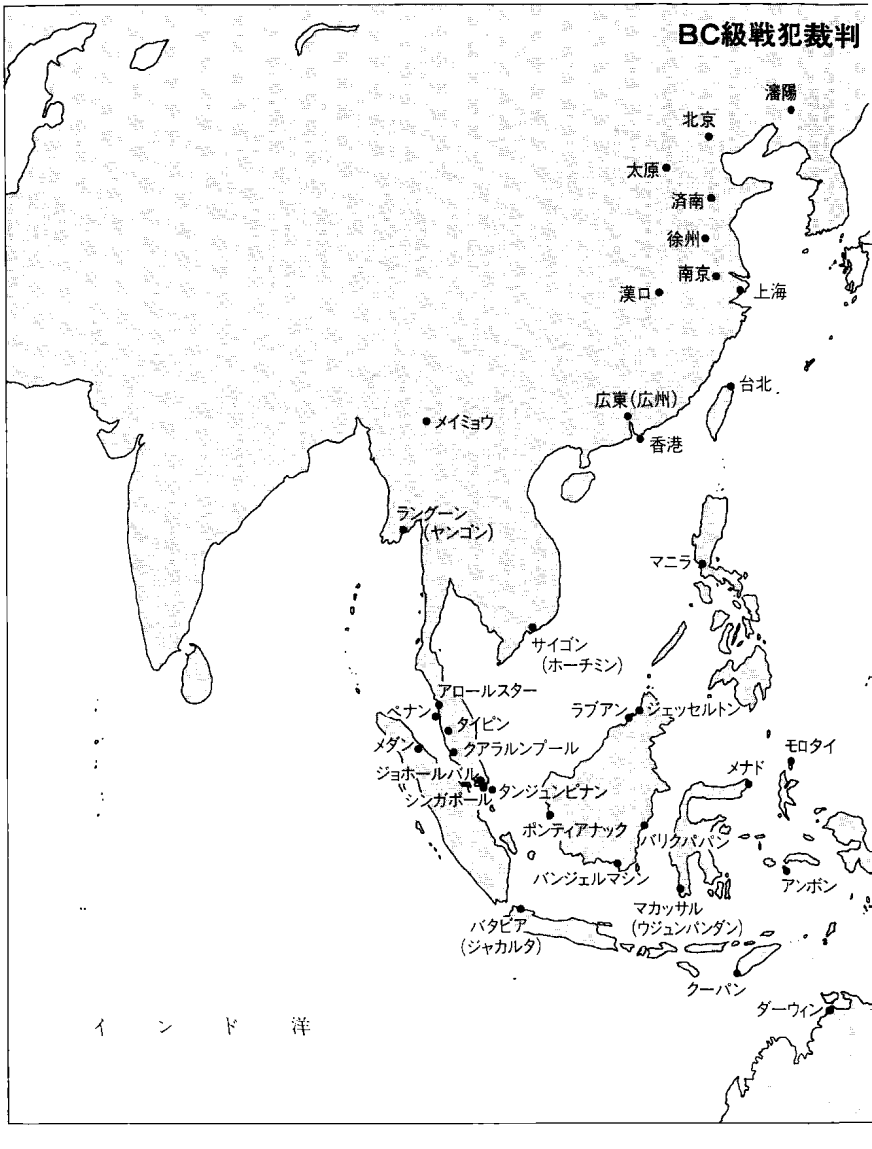
豪州裁判……ウエワク
……ラブアン
……アンボン
……モロタイ
……ラバウル
……ターウィン
……シンガポール
……香港
……マヌス

オランダ裁判……バタビア
……バリクパパン
……マカッサル
……モロタイ
……ホンティアナック
……メナド
……アンボン
……メダン
……クーパン
……バンジェルマシン
……ホーランディア
……タンジュンピナン

中国裁判……北京
……上海
……南京
……広東
……徐州
……漢口
……瀋陽
……済南
……台北
……太原

フランス裁判……サイゴン

フィリピン裁判……マニラ


BC級戦犯裁判
瀋陽
北京
太原
済南
徐州
南京
漢口
上海
台北
広東(広州)
香港
メイミョウ
ラングーン
(ヤンゴン)
マニラ
サイゴン
(ホーチミン)
アロールスター
ペナン
タイピン
メダン
クアラルンプール
ジョホールバル
シンガポール
タンジュンピナン
ラブアン
ジェッセルトン
モロタイ
メナド
ポンティアナック
バリクパパン
バンジェルマシン
アンボン
マカッサル
(ウジュンパンダン)
バタビア
(ジャカルタ)
クーパン
ダーウィン
インド洋

装幀＝亀海昌次

# 孤島の土となるとも

## BC級戦犯裁判

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com